吉野歴史資料館だより

たぎつみやどころ

第6号
（通算第9号）

吉野川から桜橋と本善寺を望む

本善寺歴史資料調査の速報第１弾！　奥本 武裕 氏「本善寺の歴史資料調査」

資料館ＨＰでも情報発信中！ http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentou/rekishishiryokan.html

QRコード⇒

資料館、ちょっとパワーアップ①

吉野町では、昨今、様々なかたちで宮滝遺跡の史跡整備事業のご案内を行っております。そのため、宮滝遺跡に意識を取られがちですが、実は資料館も少しパワーアップしていることを、ご存じですか？

例えば、資料館の入館案内。最近の宮滝遺跡の調査成果を反映したものに更新しています。宮滝遺跡の紹介リーフレットも新たに作成し、配布を始めています。また、資料館２階では、吉野町内の『万葉集』や『懐風藻』の故地を紹介する地図の掲示・配布を開始中。もう手に入れられましたか？

資料館、ちょっとパワーアップ②

宮滝遺跡の”土層はぎとり資料”の展示準備をしています。約1300年前に宮滝にあった建物群。その建物を建てるため、柱1本毎に縦1.5ｍ×横1.5ｍ×深さ1.5ｍ程の穴（柱穴）が掘られていたことがわかりました。展示が完成すれば、柱穴の大きさを実見できますよ！乞うご期待。

写真撮影：株式会社スタジオ三十三

吉野歴史資料館だよりは、希望される方に無料でお送りしております。詳しくはお問い合わせください。

福西家の歴史資料調査

附・明治～昭和中期の歌人・詩人と吉野

吉野町では奈良大学 上野 誠先生ご指導のもと、福西家の歴史資料調査を行っています。その結果、近世の歌人と吉野の深いつながりが見えてきました。

「吉野」「文学」といわれると、『万葉集』や西行、松尾芭蕉など数百年以上前のものを思い浮かべがちです。しかし、明治以降にも多くの歌人が吉野を訪れ、たくさんの詩が残されてきています。

例えば、町内に歌碑が残る歌人に、明治天皇（吉野山憩いの広場）や昭憲皇太后（如意輪寺参道）、阿波野青畝（金峯山寺）、折口信夫（勝手神社）、与謝野鉄幹・晶子（竹林院）、尾山篤二郎（如意輪寺）、高野素十（個人宅）、正岡子規（中央公民館）、谷崎潤一郎（白狐園）、北原白秋（善行寺付近）らがいます。

また、会津八一、川田順、窪田空穂、斎藤茂吉、島崎藤村、高村光太郎、中村憲吉、中村草田男、前登志夫、水原秋桜子、山口誓子らも、吉野の詩を詠んでいたのでした（福西家の調査でも水原秋桜子や中村草田男、山口誓子の詩を確認！）。近代や歌碑に注目すれば、また新たな吉野の歴史が分かってくるかもしれません。

たぎつみやどころ　第6号　令和3年3月31日発行
【編集】吉野歴史資料館　奈良県吉野郡吉野町宮滝348　※現在は土日祝日のみ開館。12月～2月は冬季休館。お問い合わせは左記まで。
【発行】吉野町文化観光交流課文化財保存活用室　奈良県吉野郡吉野町上市80－1　☎.0746-32-3081　mailbunkazai@town.yoshino.lg.jp

資料館からのお知らせ（令和２年度の文化財事業やイベント等）

【注意！】下記イベントは、新型コロナウィルス感染症の状況によって、内容が変更となる場合があります。悪しからずご了承ください。

資料館入口での特別陳列

●昭和初頭、激動の吉野　宮滝第1次調査の頃

会期：令和3年3月1日（月）～11月末

連携講座

左記の講演を予定しておりましたが、新型コロナウィルスのため、延期・中止となりました。

《with 近鉄文化サロン阿倍野》

●飯貝本善寺の歴史

講師：岡村 喜史氏（本願寺史料研究所）
日時：延期

《with 熊野古道センター》

●天女が舞い降りた離宮

～奈良県吉野町宮滝遺跡の発掘調査から～
講師：当館職員　　日時：中止

その他のお知らせ

吉野が紹介されます・されました！

左記刊行物等に記事や写真提供しました。

・機関紙・『ナント経済月報 2020年10月号』
・機関紙・『CAMPING』（日本キャンプ協会）
・本・『地域の古代日本』第4巻
・本・『人物叢書　大伴旅人』
・TV・修験道の成立と広がり（三重テレビ）
・HP・よしのーと（吉野ビジターズビューロー）
・講演会・資料（奈良県ビジターズビューロー）
・イベント・資料（任意団体）

【ご報告①】エレベーターがなおりました

平成8年に開館した吉野歴史資料館。おかげさまで、今年度で24歳を迎えました。ただ、気になってきたのが施設の老朽化。実は、資料館でもエレベーターの故障が起こっていました。

エレベーターの故障中は、皆様にご不便をおかけいたしました。令和2年度に工事を行い、現在は無事に修理が完了しています。お越しの際はご安心してご利用ください。

【ご報告②】吉野中学校職場体験記

令和2年11月4日～6日の3日間、吉野中学校の生徒3名が職場体験に来てくれました。遺跡を歩いて調べる踏査、文化財保護の啓発、岩神神社の岩の測量（測量結果、岩全体の最大高は約22・3ｍありました）、古文書調査等を体験してもらいました。職場体験を通じてどんなことを感じたのか、3人の感想をご紹介します。

Ｉさん　最も印象に残ったのは、岩神神社の岩の大きさ計測。見たことのない道具を使っての計測は不安で、緊張したけど、測り方もわかったし、道具の使い方も知ることができた。この知識を将来に生かしていきたい。

職場体験は思っていた以上にハードで、でもその分楽しさがあった。働くということは1つの行動に責任を持ち、簡単で楽ではないことがあらためてわかった。

Ｓさん　最も印象に残ったのは、岩神神社の岩の大きさ計測。岩の大きさを測るためには、道具を使わないと測れないことを初めて知った。山を登り、何度も繰り返し測ることで正確に岩の大きさを調べだすことができた。

働くということはただお金をもらうためのことではなく、いろいろなことを学び、新しい発見をする機会でもあると感じた。この体験を活かし、将来、働くようになった時には、新たな発見ができるように頑張りたい。

Ｍさん　最も印象に残ったのは、文化財ポスターの配布（啓発）。吉野のことについては知り尽くしていたと思っていたけれど、まだまだ知らないことがたくさんあって驚いた。（上市橋を渡り、吉野小学校まで上市であるなど。）

踏査では、ふつうに観光客がいるところに、土器が落ちていてびっくりした。ほかにもいろんなことがあってすごく楽しかった。

―最後に、この仕事のやりがいについて質問を頂きました。学芸員は「雑芸員」という事があるくらい、大変な事も多い仕事です。でも、新発見ができたり、地域の宝物を守れたり、歴史ファンとお話できたりと、喜びもたくさんあります。一番のやりがいは、お客さんの笑顔でしょうか。皆さんも将来、素敵な仕事でご活躍されることを祈念します。

測量を行った岩神神社の岩

【特別寄稿】

本善寺の歴史資料調査

本善寺歴史資料調査指導委員会　委員　奥本武裕

吉野町では、令和元年度から文化庁の補助金を受けて、飯貝の本善寺に残された歴史資料の調査事業に取り組んでいます。龍谷大学の前学長で本願寺史料研究所長の赤松徹眞先生を指導委員長とする調査団によって、古文書・古典籍の調査を四年間の計画で行っているところです。

六雄山本善寺（浄土真宗本願寺派）は、文明八年（一四七六）に本願寺第八代宗主の蓮如によって、吉野地域や奈良地域の門徒たちの要望を受けて、吉野川左岸の飯貝の地に創建された坊舎にはじまり、文亀元年（一五〇一）には蓮如の一二男実孝が第二代の住職となり、以後、本願寺宗主の一族（一家衆）が代々の住職を勤め、本願寺の代々の宗主の遺骨を分骨されるなど、大和における本願寺教団の最有力寺院でした。

戦国時代には、大和一国の本願寺派寺院や門徒たちが与力となって本善寺を支える体制が作られており、天文元年（一五三二）に奈良で一向一揆が蜂起した際には、追討の軍勢に追われた一揆勢が本善寺にかくまわれ、態勢を立て直しました。最終的に一揆は鎮圧され、本善寺住職実孝は、天文六年（一五三七）まで本善寺に戻ることを許されない状態が続きました。

また、織田信長と大坂の本願寺の間での戦争（いわゆる石山合戦）の際には、本願寺に呼応する動きをみせた本善寺と下市の願行寺（吉野郡下市町）に対して、天正六年（一五七八）十月に筒井順慶の軍勢が攻め入り、両寺が焼き払われるという事態に至りました。

江戸時代はじめに本願寺が東西に分立した際には、本善寺は西本願寺に属し、中本山寺院として多くの下寺と西本願寺の間を取り次ぐとともに、吉野東部と宇陀地方の西本願寺末寺院を束ねる役割を果たすなど、吉野地方のみならず大和国の本願寺教団の中核寺院として重要な地位を占めてきました。

〔写真 1〕本善寺全景

近代に入り、それまでの本末関係が解体された後も、多くの門信徒の助力によって本善寺の法灯は維持され、大正時代に本願寺派の宗主が不在となった時期に、本善寺住職六雄沢慶が宗主を代理する職（管長事務取扱）に就き、苦境のなかの西本願寺を支えるなど、本願寺派教団の歩みのなかで大きな役割を果たしました。

本善寺には、中世から近代に至る貴重な歴史資料が多く保存されてきたことは早くから知られており、その一部は戦前期にも調査が行われ、浄土真宗史研究のみならず、奈良県の地域史研究においても種々に利用され、多大な成果を挙げてきました。

しかし、その全貌については長らく未調査のままでしたが、当時本願寺史料研究所の副所長であった金龍静さんや龍谷大学教授であった浦西勉さんによる中世史料の調査、本願寺史料研究所調査員の岡村喜史さん、筆者による近世史料の調査が近年進められ、その成果を受けて、吉野町による総合的な歴史資料調査が行われることになったのです。

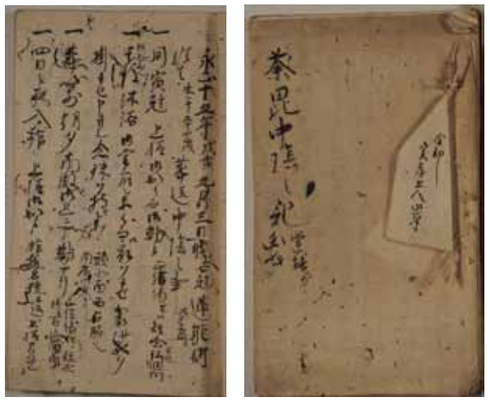
〔写真 2〕本善寺本堂

〔写真 3〕文明 12 年（1480）12 月 25 日「売渡申山之事」

当初は、古文書六千五百点、古典籍千点が残されていると見積もっていましたが、調査を進めるに従って、古文書・古典籍ともに予想を遙かに超える点数が所蔵されていることが確認されました。そのなかには、これまで知られていなかった中世の古文書百数十点や、第二代住職実孝直筆の記録類も発見され、本善寺の歴史資料の価値はさらに高まったと考えています。

例えば、新たに確認された中世の古文書は土地売買の証文や寄進状が中心ですが、本善寺が開かれて間もない文明十二年（一四八〇）に当時の道場主であった慶順坊宛ての土地売買の証文などが、古典籍の調査では、第二代住職実孝直筆の母蓮能尼と甥円如の往生から葬送に至る記録などが含まれています。

これらの史料を詳細に分析していくことによって、浄土真宗史や奈良県の地域史研究に多くの新しい知見がもたらされることになるだろうと考えています。



〔写真 4〕「荼毘中陰之記」

本善寺歴史資料調査は文化庁および奈良県からの補助を受けて行っております。